

令和6年度 施策・基本事業マネジメントシート（令和5年度実績に基づく評価）

作成日 令和 6 年 7 月 30 日

政策体系	基本目標名	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	施策主管課長	観光推進課
	政 策 名	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		川田 泰
	施 策 名	1	ひとを集める観光戦略の展開		
施策関係課	広報ブランド推進課、市民生活課、産業政策課、農政課、農山村振興課、文化推進課、スポーツ推進課、文化財課				

1. 施策の目的と成果把握

施策の目的 「対 象」	この施策は、誰、何を対象としているか	対象指標		単位	R4	R5	R6	R7	成果指標 設定の考え方	①②③観光の目的で佐野市を訪れてもらう、宿泊してもらうを増やすことがこの施策の目的であり、観光客の入込数や宿泊数を把握することにより各種事業の成果向上が期待できるため、成果指標として設定した。 ④市民がおもてなしの心を持っていることのひとつの形として、中心的に活動する観光ボランティアガイド協会の登録者数や活動回数を把握することにより、各種事業の成果向上が期待できるため、指標として採用した。	
	①国内に居住する人(関東地方)	① 関東地方1都6県の人口		千人	43,535	43,527					
	②アジアの観光客	② アジアからの観光客数		千人	3,001	19,984					
	③市民(市内事業所を含む)	③ 市の人口		人	115,700	114,695					
		④									
施策の目的 「意 図」	この施策によって、「対象」をどういう状態にするのか	成果指標(意図の達成度を表す指標)		区分	単位	R4	R5	R6	R7	成果指標の 取得方法	① 栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果 ② 栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果 ③ 栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果 ④ 佐野市観光ボランティアガイド協会会員名簿
	①②佐野市を訪れてもらう。 ①②佐野市に宿泊してもらう。 ③おもてなしの心で観光客を受け入れる。	① 市の観光客入込数	目標	千人	8,500	8,600	8,700	8,800			
			実績		6,429	7,134					
	② 市の観光客宿泊数	目標	人	60,000	61,000	62,000	63,000				
		実績		56,943	64,290						
	③ 外国人宿泊数	目標	人	1,000	1,100	1,200	1,300				
		実績		521	963						
	④ 観光ボランティアガイド協会の登録人数	目標	人	40	40	50	50				
		実績		30	34						

2. 基本事業の目的と成果把握

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	R4	R5	R6	R7	基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	R4	R5	R6	R7
積極的な誘客を図る観光戦略の推進	①国内に居住する人 ②アジアの観光客	①②本市の魅力を知ってもらい、来訪、宿泊してもらう。	① 来訪者満足度	目標	%	92	95	95	95	インバウンド誘客の強化	①市内事業所 ②アジアの観光客	①受入環境を整備してもらう。 ②本市に来訪、宿泊してもらう。	① ハラル対応事業者数	目標	店	22	23	23	24
				実績		95	97							実績		18	23		
			② リピーター率	目標	%	77	78	79	80				② 外国人宿泊数	目標	人	1,000	1,100	1,200	1,300
				実績		81	76							実績		521	963		
			③ 広域での連携事業数	目標	事業	17	17	18	18				③	目標					
				実績		13	15						④	実績					
コンベンション事業の推進	①関連イベント ②関連作品	①本市で開催する。 ②本市で撮影する。	① コンベンション事業数	目標	事業	8	9	10	10	おもてなしの心の醸成	①市民	観光客に対するおもてなしの心が醸成されている。	① 観光ボランティアガイドの活動回数	目標	回	40	50	70	90
				実績		12	6							実績		8	18		
			② ロケ誘致件数	目標	件	23	25	28	30				② まちの駅の数	目標	箇所	35	43	50	55
				実績		19	21							実績		35	33		
			③	目標									③	目標					
				実績									④	実績					
			④	目標										目標					
				実績										実績					

3. 施策の目標達成度評価

施策	令和5年度施策の取組方針	施策の取組方針・成果指標達成状況	
	取組方針	☐ 全て達成 ☒ 一部未達成 ☐ 全て未達成	【施策の取組方針達成状況】 ・（一社）佐野市観光協会が地域DMOとして承認された。（観光地域づくり法人支援事業） ・栃木県や近隣市町等と連携した観光PRを実施した。（観光キャラバン事業） ・デジタル技術を活用した天明鑄物の動画等の作成に取り組むことができなかった。（観光推進事業） ・地域おこし協力隊員と連携し、インバウンド向けの観光マップを制作し、クリケット大会において配布するとともに、宿泊施設等に配置し、インバウンド誘客を推進した。（訪日ムスリムインバウンド事業） ・フィルムコミッション事業について、地域おこし協力隊員と協力し、SNS等を活用した情報発信を行いロケの誘致及び観光誘客を図った。（コンベンション・フィルムコミッション推進事業） ・地域DMOと連携したコンベンション事業（MICE）の推進を図ることができなかった。（コンベンション・フィルムコミッション推進事業） ・観光ボランティアガイドの活用促進を図り、「おもてなしの心」の醸成とボランティアガイドの育成・増員に努め、前年度よりもボランティアガイドの登録人数及び活動回数は増加した。（観光ボランティア育成事業）
	・候補DMOが行うマーケティングによる観光戦略の策定、一元的かつ効率的な情報発信やプロモーションの支援を行うとともに、佐野市観光地域づくり協議会での多様な関係者との合意形成を促すことで、地域DMOの正式登録を目指す。 ・栃木県や近隣市町、観光協会等と連携した観光PRを行う。 ・特産品や名産品、特に天明鑄物を活用した動画について、デジタル技術を活用して作成し、SNS等を用いた情報発信により、国内外に本市の魅力をPRする。 ・飲食業、宿泊施設等における外国語対応の推進やクリケットを活用することで、インバウンド誘客を進める。 ・フィルムコミッションのホームページにロケ地マップなどを掲載するなど内容の充実を図るとともに、SNS等を活用した情報発信を行い、ロケの誘致及び観光誘客を図る。 ・候補DMOと連携し、交通の利便性の高さをPRすることで、コンベンション事業（MICE）の推進を図る。 ・観光ボランティアガイド協会と連携し、ボランティアガイドの活用促進を図り、「おもてなしの心」の醸成とボランティアガイドの育成・増員に努める。	成果指標	【施策・基本事業の成果指標達成状況】 ・積極的な誘客を図る観光戦略の推進及びインバウンド誘客の強化については、観光客入込数及び外国人宿泊者数は増加しているが目標を下回った。観光客宿泊数については、目標を達成できた。（観光地域づくり法人支援事業） ・おもてなしの心の醸成については、観光ボランティアガイドの登録人数及び活動回数は、前年度より増加したが、目標を大きく下回っている。また、まちの駅の数も前年度よりも減少してしまい、目標を下回っている。（観光ボランティア育成事業、まちの駅設置促進事業）

4. 施策の基本情報

施策の基本情報	社会情勢変化、国・県の動向、市民・議会意見等	施策の成果向上に向けての役割分担		
	・2022年10月に「いちご一会とちぎ国体」及び「いちご一会とちぎ大会」が開催された。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の防止のため、入国制限が強化されていたが、徐々に規制が解除されていった。 ・国内においても、段階的に行動制限が緩和された。 ・令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類に変更された。	市民	事業所	行政
		・市内の魅力を伝える。 ・フィルムコミッション事業にエキストラとして協力する。 ・おもてなしの心で観光客を受け入れる。 ・観光ボランティアとして協力する。 ・外国人旅行者への理解を深める。	・ロケ地の提供などフィルムコミッション事業に協力する。 ・旅行者のニーズに対応した商品の開発やサービスを提供する。 ・行政と積極的に連携する。 ・まちの駅に登録する。	・広域連携による観光誘客策を検討する。 ・事業者や関連機関と連携し、観光プロモーションを行う。 ・効果的な誘客対策を実施する。 ・おもてなしの心の普及、啓発をする。

5. 施策全体の総括・今後の課題・今後の方向性

施策の成果実績と施策の基本情報及び施策コストに関する全体総括	今後の課題	今後の方向性
・新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたことが、施策の成果指標に対し、プラスに作用し、観光客入込数は前年比11.0%増、観光客宿泊数が12.9%増、外国人宿泊数が84.8%増となり、観光客宿泊数についてはコロナ前の状況を超えた。しかし、観光客入込数は未だ目標に達していないため、広域観光やインバウンドを推進することにより、観光客入込数を増加させていく必要がある。 ・積極的な誘客を図る観光戦略の推進に関する取り組みとして、観光スポットの夜間ライトアップを市内2箇所で実施し、延べ約8,000人の来場があり、市民、観光客から好評を得た。さの秀郷まつりを4年ぶりに1日間で開催し、約8万人の来場があった。 ・インバウンド誘客の強化に関する取り組みとして、インバウンド向けの観光マップを制作し、クリケット大会において配布するとともに、宿泊施設等に設置し、インバウンド誘客を推進した。また、JICE「対日理解促進プログラム」として、東ティモールから農業関係者を受入れ、市内視察やホームステイを行った。 ・コンベンション事業の推進に関する取り組みとして、地域DMOと連携したMICE事業の推進を図ることができていない。市・宮宮市などと比較すると、大規模な会議等に対応できる施設が備わっていないことから、今後は地域DMOによる小規模な会議等を誘致するMICE事業を支援するなど、市によるコンベンション事業への取り組みを見直す必要がある。 ・おもてなしの心の醸成に関する取り組みとして、観光ボランティアガイドの登録人数及び活動回数は目標値より大幅に下回っている状況である。活動日数については、コロナ禍による旅行形態の変化もあり、ガイド申し込みの主であった団体ツアーでの来訪が復活していないためと推察する。また、まちの駅の駅申し出しも目標値を下回っている状況であるため、本基本事業については、取り組み手法を見直す必要がある。 ・「ひとを集める観光戦略の展開」部分の令和5年度決算額は、5,142万円で、令和4年度決算額4,622万円に対し520万円増加した。主な要因としては、観光事業者との連携強化、訪日ムスリムインバウンド推進、さの秀郷まつり開催支援に関する支出の増加によるものである。	【令和6年度で解決する課題】 ・インバウンドを含む近隣市町と連携した広域観光の取組 【令和7年度以降にも引き継がれる課題】 ①地域DMOと連携した観光誘客の仕組みづくり ②県や近隣市町や関係団体と連携した広域的で効果的な観光情報の発信 ③英語圏を対象としたインバウンド誘客のための受入体制の強化 ④地域DMOと連携したMICE事業の内容の見直し ⑤ロケの積極的な誘致及びロケ支援した作品によるロケ地巡りによる観光誘客 ⑥観光ボランティアガイドの育成・増員及び活用 【令和7年度重点課題】 ⑦地域DMOと連携し、観光客の市内滞在時間の延長による経済効果及び交流人口の増加に繋がる夜の観光を含めた事業展開	①地域DMOを中心とし、市内観光事業者と連携した観光イベントの開催や飲食プランの提案等により、観光誘客を図る。 ②栃木県や近隣市町、観光事業者や鉄道事業者等と連携し、林道を活用した広域的な観光PRを実施し、本市の魅力を発信する。 ③地域おこし協力隊員や企業等と連携し、飲食店等の外国語対応の推進や、農泊、民泊、ホームステイに協力してもらえる市民とのネットワークを構築する。また、インフルエンサーを活用し、動画等を発信する。 ④地域DMOがMICE事業を推進するための事業費補助を行うとともに、クリケット大会やマラソン大会等の参加者や来場者向けの歓迎サポートを提供し、観光誘客を図る。 ⑤フイムコミッションのホームページの内容充実やSNSを活用した発信を行うことにより、ロケの誘致及び観光誘客を図る。 ⑥観光ボランティア養成講座を隔年で実施し、人材育成を図る。また、観光ボランティアガイドを積極的に活用していく。 ⑦地域DMOと連携し、国の補助等が活用できる事業を創出し、ナイトタイムエコノミーを推進することにより経済効果に繋げていく。